

青丘文庫

月報

No.117

1997年4月1日発行

<発行人> 〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1 メゾン・ド・青丘内 青丘文庫
韓 哲 曦 TEL/FAX 078-735-0220
<編集人> 〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
飛田 雄一 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

【巻頭エッセー】

青丘文庫の思い出

堀内 稔



初めて青丘文庫に行ったのはいつだったか、記憶に残っていない。たぶん70年代中頃だったと思う。77年に『むくげ通信』の訪問記で青丘文庫をとりあげ、私が当時文庫の事務員をしていた宮嶋さんからいろいろ聞いた。その時の記録をみると、76年の夏くらいから文庫が本格的に利用され始めたとある。

その頃の青丘文庫は、JR鷹取駅の北東にあるエバーグリーンというビルの5階にあった。ケミカルシューズの関連企業が雑居していたビルで、研究会のたびに、少し薄暗い階段を上り下りしたことが思い出される。このビルは震災で倒壊して今はない。

83、4年頃、ほとんど毎日曜日にこの文庫に通った。当時は「在日朝鮮人運動史研究会」と「朝鮮民族運動史研究会」の2つが、主に第2、第3日曜日にあり、それ以外の日曜日に『東亜日報』を読みに通ったのである。

青丘文庫の『東亜日報』は、マイクロフィルムを湿式コピーして製本したものが大半だ。もともとが鮮明でないから、コピーするとほとんど読めなくなる。青丘文庫に来て読むしか方法がなかったのである。

朝10時頃、当時文庫の近くに住んでいた事務員の金慶浩さんを訪ね、文庫の鍵を借りて夕方頃まで新聞記事に取り組んだ。見づらいうえに古い綴字法の朝鮮語だったので、読むというより解読するという感じだった。午後になると、現在は兵庫朝鮮関係研究会で活動されている金慶海さんがやってきて、金慶浩さんとよく囲碁をしていた。その時に交わされたかけあい漫才のような朝鮮語が、今でも印象に残っている。この時の「解読」の成果は、『むくげ通信』で84年から2年にわたって連載した「朝鮮室素と民衆」に結実した。

震災後1年ほどたって、かつてのエバーグリーンビルのあたりを歩いてみた。あたりは何もなくなってしまっており、ここを曲がって少し歩いたところに……と記憶をたどらないとわからないような状態であった。金慶浩さんは88年にすでに亡くなられていたが、その住居があったと思われるあたりに立ち、このへんの狭い路地を歩いて鍵を借りにいったはずだと、少々感傷的になった。

86年から青丘文庫は韓哲曦さんの自宅であるメゾン・ド・青丘に移転した。前よりも新しい建物で、長い階段を上り下りしなくてもいいだけ楽になった。しかし、いまだに強く印象に残り、懐かしく思い出されるのは古い青丘文庫である。

今年6月中旬から、再建された神戸市立中央図書館（大倉山）で新たな青丘文庫がオープンする。これまでの研究会もそこで行われるが、朝鮮の研究者に対し今まで以上に開かれた文庫になることを期待したい。

【第186回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（1997年3月16日）】

京都府協和会について

浅田明子



京都府協和会は在日朝鮮人を一本化して統治するための全国組織の道府県組織で、京都府の在日朝鮮人管理体制である。協和事業は「内鮮一体」にむけて「同一精神の下に、同一歩調にて各地一斉事業を」行なっていたのだが、京都府に視点をおくことによって、京都府の経済状況及び在京都朝鮮人の生活状況などと京都府協和会で行なわれた事業が密接に関係してくると思ひ、それら京都府協和会活動の背景をふまえつつ具体的な活動内容について考察していった。

資料は主に、京都府庁文書（『知事引継演説書』他）、京都府社会事業協会『社会時報』、大阪朝日新聞（京都版）を参考にした。

＜報告内容の概観＞

・協和会の概略、協和会及び京都府協和会の研究論文・著書について

一 なぜ1936年に京都府協和会が設立されたのか。

協和事業の予算処置と京都府のこれまで（1920年代～30年代前半）の朝鮮人対応について

二 京都府協和会のしくみ

機構（構成メンバー）、予算形成、中央協和会との関係について

三 京都府協和会運営の背景

当時の在日朝鮮人の渡航状況及び日本の状況、京都府協和会運営の側面二点（朝鮮人労働力の必要性・警察権力の必要性の存在）を京都府の土地柄と結びつけて説明

四 主な活動内容

協和会会員章、教育教化の普及徹底、生活改善事業、勤労奉仕、愛国貯金、国債購入、献金、善行者の美談・表彰などの主な活動内容について前述した資料を参考にしながら説明

五 協和事業の矛盾

戦争の長期化と在日朝鮮人の状況、“協和事業”から“興生事業”への展開、処遇改善について

報告後の、私の報告への指摘や、他府県協和会の話は、今後の研究の参考とさせていただきます。

【第159回朝鮮民族運動史研究会例会（1997年3月16日）】

第一次世界大戦後の朝鮮人の世界観

— 1919年2月8日、日本人留学生らの民族運動を中心に — 李景珉



植民地時代において海外での抵抗運動の意義は、国内の同胞が支配者に対し服従することだけが許される状況のなかで、民族の独立意思を世界に表明し共鳴を得ることである。そして、それが国内の民衆に希望と勇気を与え、さらに支配者には世界の世論が植民地支配を監視しつつ、糾弾していることを感知させるところにある。

3・1独立運動の先駆となった日本留学生らによる2・8独立宣言運動は、朝鮮の民族運動史のなかにおいてきわめて重要な位置を占めている。

この日本留学生らの運動に関してはすでに若干の研究がある。今日の報告は、従来の研究を

踏まえながら、解放を迎えるに至るまでの抵抗運動の展開過程を、第一次世界大戦の終結の意味と2・8独立宣言運動において中心的役割を担った人物たちの素顔と、さらに彼らのその後の民族運動との関係などを追跡してみたい。

周知のように、米国は大戦当初「中立国」であったが、1917年4月「民主主義にとって安全な世界をつくる」との目的を掲げて、ドイツに宣戦布告した。そして米国は、大量の軍隊と軍需物資を西部戦線に送り、軍事力の面においても主導権を掌握して戦後世界政治への発言力を強めていった。1918年1月、大戦終結の目前に発表されたウィルソン大統領の民族自決主義は、世界の数多の非抑圧民族の注目を集めた。しかしそれは、世界の新たな実力者として浮上した米国が、講和問題の一般的原則に関して言及する中で主張したものであった。

朝鮮民族は、大戦の終結を国権回復の好機として捉え、起ち上がった。当時日本には朝鮮人留学生が約500～600名程度在住していたが、彼らは大戦の終結の意味を熟知して、組織的な運動に乗り出した。その背景には、当時の日本社会がいくぶん自由であってさまざまな民衆の要求が行なわれていたこと、東京で世界の動きを十分に捉えられたこと、また日本人の知識人たちの朝鮮人青年学生たちに及ぼした影響をも無視することができない。

日本の新聞は連日、米国における非抑圧民族の独立運動の状況を報じており、それは朝鮮青年達の民族意識を昂揚させた。1918年12月29日、留学生たちは学友会主催の忘年会、翌日の弁論大会で愛国哀情を訴えながら、実行委員の選出、仕事の分担、本国派遣員などを決定し、具体的な運動を模索した。

そして、1919年2月8日学生達は、朝鮮青年独立団の名前で「独立宣言書」を在東京各国大使館、貴族院・衆議院議長、政府官僚、朝鮮総督、各新聞社・雑誌社、その他著名人らに発送し、東京神田の朝鮮基督教青年会館で「独立宣言大会」の集会を開催した。

こうした学生たちの独立運動は、その後海外の独立運動家らを激励（上海、シベリヤ、米国などに伝播）、国内における運動にも重要な役割を果たした。

独学研究30年 78歳に博士号

約三十年間にわたり、独学の街づくり協議会会長として復讐に奔走する傍らまわってきた神戸市須磨区在住の七十八歳の在日韓国人男性が、研究の集大成として執筆した論文で母校の同志社大学神学部から二十日、博士号を授与される。阪神大震災で自らも被災、地元

神戸の在日韓国人男性 朝鮮の宗教史で論文



地元の街づくり協議会会長として奔走する韓哲曠さん

州島生まれで、二六年に日本に移った。神戸ではケミカルシューズ製造会社を経営しながら、六〇年代半ばから朝鮮宗教史の研究に着手。六九年には韓国・朝鮮

史関係の史料を体系的に集めた私設図書館「青丘文庫」を開設。朝鮮史資料館としては国内最大規模にまで育て上げた。

母校の同大、あす授与 被災も乗り越え

韓さんは米国人宣教師が主宰する福祉施設に勤めたのがきっかけで、三九年に同志社大文学部神学科に入学したが、病气や学生生活で出陣するなどで学生生活は途切れがちに。こうした後悔の念が、生涯をかけた研究につながった。

論文の執筆に取り掛かったのは九五一年一月。その直後に神戸の街を激震が襲い、別の経営者に貸していた須磨区千歳の工場一帯は焼け野原となるなど、壊滅的な被害を受けた。貸工場

韓さんは米国人宣教師が主宰する福祉施設に勤めたのがきっかけで、三九年に同志社大文学部神学科に入学したが、病气や学生生活で出陣するなどで学生生活は途切れがちに。こうした後悔の念が、生涯をかけた研究につながった。

論文の執筆に取り掛かったのは九五一年一月。その直後に神戸の街を激震が襲い、別の経営者に貸していた須磨区千歳の工場一帯は焼け野原となるなど、壊滅的な被害を受けた。貸工場

研究会のご案内

第160回 朝鮮民族運動史研究会

1997年4月13日(日)午後1時30分

報告者 金 河 元 氏

テーマ 「初期開化派の政治認識」



- 阪急六甲より徒歩2分
- JF六甲道より徒歩10分
- 新幹線新神戸よりタクシー15分

第187回 在日朝鮮人史研究関西部会

1997年4月13日(日)午後3時30分

報告者 金森 襄作 氏

テーマ 「延辺の朝鮮族と在日朝鮮人」

会場は、いずれも神戸学生青年センター(地図参照)

(阪急六甲下車、北東徒歩2分、Tel (078)851-2760)

※ 4月26日(土)午後6時より、「韓哲曦先生の博士号取得をお祝いする会」(於/神戸学生青年センター)を開きます。参加費5000円。申し込みは、学生センター飛田まで。

《今後「研究会」の予定》(研究会は、原則的に第2日曜日です。)

97年5月11日(日) 高木伸夫(在日) 宋連玉(民族)

6月8日(日) 水野直樹(在日) 未定

7月13日(日) 塚崎昌子(在日) 未定



《『月報』巻頭エッセーの予定》(原稿〆切は、前月の25日です)

5月号(飛田雄一) 6月号(李景珉) 7月号(宋連玉) 9月号(金河元)

10月号(佐野道夫) 11月号(金基旺) 12月号(伊地知紀子)

《関連集会案内》

映像は語る/大阪の朝鮮人強制連行と強制労働/5月1日~18日 於/ピースおおさか

TEL 06-361-5488 06-323-2551

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者追悼会/5月11日(日)10:00 神戸市兵庫区役所

→1928年5月7日の事故現場(2名死亡、山田村原野)→モニュメント→昼食

朝鮮史セミナー/シンポジウム「自由主義史観」を問う-日露戦争・植民地支配・「従軍慰安婦」-

6月14日(土)13:30~17:00/神戸学生青年センター 参加費 1000円

講師/滝沢秀樹氏、宋連玉氏、井口和起

第8回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働 全国交流集会/7月26日(土)~27日(日)

松江市社会福祉センター/TEL 0852-22-5111 内線 5477 大谷浩章 078-851-2760 飛田

日韓関係史エスベラントシンポジウム/8月28日(金)18:00~29日(土)15:00

於/神戸学生青年センター/TEL 06-958-2503 (西尾勉)



《編集後記》文庫の神戸市立図書館での再スタートは、6月です。閲覧のために会員登録が必要のようです。方法等、次号で知らせます。(飛田 E-mail MXI01010@niftyserve.or.jp)